大分市立
野津原小学校
学校だより

のつはる

主体的に学び 行動できる児童の育成

第2号
令和8年4月30日
校長 水田 匡彦

■教育課程とカリキュラムマネジメント

学習指導要領は、文部科学省が定める教育活動の基準です。全国どこの学校でも一定の教育水準を保てるよう、各学年で教える内容や目標を定めています。この学習指導要領は、335頁ありますが、二百円程度で購入可能です。

教育課程は、学習指導要領に基づいて各学校が作成する具体的な教育計画です。野津原小学校の教育課程では、知・徳・体にわたる生きる力を育むために、何のために学ぶのかという学ぶ意義を共有しながら、授業の創意工夫や教材の改善を引き出していくことができるように、全教科の目標と内容を、知識及び技能、思考力・判断力・表現力等、学びに向かう力、人間性等の三つの柱で再整理しました。今年度は、この教育課程を日常的に確認しながら、定期的に検証することを含めて、カリキュラムマネジメントを丁寧に行っていこうと考えています。

■社会で必要とされる力と相手意識

社会で必要とされる力は、主体性、実行力、課題発見力、課題解決力など、多岐にわたります。また、企業が採用活動でコミュニケーション能力を重視する理由は、仕事は一人でできるものではなく、協働が必要だからです。これらの必要な力に共通することは、何かおわかりでしょうか。人の気持ちを考える相手意識に他なりません。正論や論理が完璧であっても、それだけで人が動くとは限りません。なぜなら、人は感情の生き物だからです。価値観も一様ではありません。相手が何に価値を置き、どう感じているかを考えたうえで、言葉を選び説明してはじめて、納得したうえで意図通りに動いてくれるのです。

この相手意識を育む絶好の場が、実は、国語の授業です。人物の心情、気持ちの変化などを、言葉や表情、行動などから、想像する学習は、単なる読解問題ではありません。自分と異なる他の人の視点に気づき、想像力を拡げる社会生活のシミュレーションなのです。国語で日常的に学んでいる想像力を、日常生活で十分に活かしてほしいと思います。自分の言動に対して、相手がどんな反応を示したか、よく観察して、必要であれば、自分の言動の軌道修正をする。この繰り返しが、コミュニケーション能力を磨き上げることになるはずです。学校は安心して失敗できる所です。うまくいかなかったときは、次の言動のヒントとして、豊かな相手意識を育んでほしいと願います。

■学校の外でのコミュニティー

学級の決め事は、全員参加の学級会で決まります。そこには、知らない間に物事が決まらないという安心感があります。一方で、クラスの中に、全員参加ではないコミュニティーが存在するとすれば、どう感じるでしょうか。個人的な集まりであり自由だ、口出しすることは過干渉だ、という意見もあるでしょう。大人の世界であれば、その通りかもしれません。では、経験の浅い子どもたちの世界でも、同じように言えるでしょうか。その輪に入っていない子どもは疎外感や不信感を持つことに、コミュニティーを形成している人たちは思いを馳せたことはあるのでしょうか。自分が逆の立場だったらと、想像力を働かせたことはあるのでしょうか。ひそひそ話は、周囲の人に感じが悪いと思わせてしまう行為です。一部の人が参加するコミュニティーは、いわば、集団的ひそひそ話です。対面でのひそひそ話以上に、可視化されにくく、時としてより強く誰かを傷つけることはないでしょうか。

小学生のスマホ保有率は5割を超えました。スマホがあれば、簡単に、また、気に入らない人を排除したコミュニティーを作れる時代です。しかし、スマホを持たせた理由は、そのような使い方をさせるためだったでしょうか。学校は、相手意識を大切に、協働する力を学ぶことを大切にしています。これから、五月の連休を迎えます。この機会に、親子でスマホの在り方について、相手意識の視点を持ちながら、対話をしていただけると助かります。